

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	本公郷改良アパート建替事業 A1棟新築工事	階数	地上9F
建設地	神奈川県横須賀市公郷町2丁目22番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	78人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年4月 予定	評価の実施日	2019年10月17日
敷地面積	2,192㎡	作成者	株式会社市浦ハウジング&プランニング東京支店
建築面積	469㎡	確認日	2019年10月17日
延床面積	2,384㎡	確認者	株式会社市浦ハウジング&プランニング東京支店



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 住宅性能評価で断熱等性能4等級、一次エネルギー消費量4等級を取得する計画とし、省エネルギーに配慮している。中央広場を設置し交流を生む場を連続して配置させることで賑わいと潤いのあるコミュニティを形成する。敷地境界線際の植栽など、良好な緑地環境に配慮している。		
Q1 室内環境 複層ガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能に配慮(省エネルギー対策等級4)している。室内空気環境においては、内装建材にF☆☆☆☆を全面的に採用し、換気量においては建築基準法の1.4倍としている。	Q2 サービス性能 高耐久(劣化対策等級3の確保)かつ計画自由度の高い躯体としつつ内装材・設備の更新性を高めることで建物の高寿命化を図り、LCCO ₂ の削減を目指す。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内駐車場緑化などにより熱容量の大きい舗装範囲を小さくする。緑陰と蒸散作用による温度低減効果の高い高木を配置することでヒートアイランド現象の抑制を図る。
LR1 エネルギー 断熱性能を省エネルギー対策等等級4相当とし、潜熱回収型給湯器、LED照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 主要水栓に節湯C1、便器を節水型とし節水に配慮。P.S.天井内配管等により設備との錯綜を回避し、部材の再利用の可能性を高めている。また、再生砕石等のリサイクル材やエコマテリアル、グリーン購入法適合品等を積極的に使用し環境負荷の軽減に努める。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制するなど、地球温暖化への配慮をしている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される